

令和4年度 中央区立中央小学校 外部評価報告書

外部評価委員： 豊田一成、高安正美、鈴木英子、鈴木一弥、片山英治、稲生憲一
報告書作成者： 神山安弘

評価時期 令和5年3月

1 重点目標の評価

重点目標1「人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」について

評価指標①「道徳的意識の向上を図るために、道徳科を中心に指導方法を工夫し、自分の生き方を深くみつめさせるようにしているか。」は、保護者の71.0%、教員の100%が「十分達成している」「達成している」と、教員から高い評価を得ているが、保護者の9%が「改善を要する」、20%が「よくわからない」と教員と保護者の意識の乖離が見られる。学校での道徳科の授業や道徳的意識の向上を図る実践を保護者に啓発する取り組みを期待する。また、設問の「自分の生き方を深く見つめさせる」の評価は難しく検討が求められる。評価指標②「なかよし班活動や異学年との交流、幼少連携教育などの交流や体験的活動、地域との連携を通して、豊かな人間関係と社会性を育てているか。」は、保護者の93%、教員の93%が「十分達成している」「達成している」と高い評価をしている。この設問は「校内の異学年との交流」と「幼保、地域との交流」の2つの内容で構成されており、重点目標を達成する交流活動への設問である。児童の実態など多様な視点から、分析・考察し次年度への改善策につなげることを期待する。

重点目標2「確かな学力の保障と学習意欲の喚起」について

評価指標①「学力向上プランに基づく授業を推進し、教材・教具の整備、教育環境の充実を通して、どの子も意欲的に取り組み分かる授業をしているか。」は、保護者の83.1%、教員の83%が「十分達成している」「達成している」と回答している。しかし、保護者の16.9%が「改善を要する」「わからない」と回答しており、児童の学校生活において解決すべき課題について実態を把握するとともに、課題を整理し改善策を明らかにすることが求められる。評価指標②「チャレンジタイムや東京ベーシック・ドリル、タブレットの有効かつ継続的な活用と、家庭と連携した学習により、基礎・基本の定着を図る。」は、保護者の91%、教員の83%が「十分達成している」「達成している」と回答している。また、「全体評価」2で「学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている。」の達成状況も89%が「十分達成している」「達成している」の評価である。学校が計画的に準備を進め実践したことが保護者に理解された結果だと考える。今後も児童が意欲的に学習に取り組み、「分かる授業」を実践する授業の課題を考察し、改善策を検討することが求められる。

重点目標3「児童の体力と健康への意識向上」について

評価指標①「『全校一輪車活動』、『なわとび月間』を含め、体育的活動の充実により、児童の体力の向上を図っているか。」は、保護者の92%、教員の100%が「十分達成している」「達成している」と高い評価を得ている。特色ある教育活動の「全校一輪車活動」について、学校が計画的に指導・実践をした結果であるといえる。評価指標②「新型コロナウイルス感染症について理解し、感染防止への意識を高めているか。」は、保護者の87%、教員の100%が「十分達成している」「達成している」と回答している。また、保護者の「全体評価」6の「学校は児童の健康・体力の増進に努めている」は91%と高い評価を得ている。コロナ禍において学校が様々な創意工夫をしながら健康・体力の増進に努め、実践していると評価している。

2 今後の改善に向けた意見

保護者アンケートにおいて、全ての項目において高い評価を得ていることから、今後とも継続しながら改善を図ることが大切だと考える。今後の改善に向け次の3点を述べる。

- (1) 保護者アンケートの回収率が67.1%である。実態の解明と家庭との連携を図る改善を期待したい。
- (2) 保護者アンケートで「よくわからない」と回答した保護者の実態を考察し改善を期待したい。
- (3) 児童アンケート(4)の結果から学級経営の充実など教員の指導力の向上に向けた取り組みを期待したい。

3 その他の意見

- ・ 評価指標の文言を吟味し、保護者等に教育活動の評価を分かりやすくする工夫することを期待したい。
- ・ 重点目標3評価項目②の設問を検討し、新たな項目を立て教育活動を展開することを期待したい。